



## 2023年 JGA ルールテスト 練習問題

テスト時間 60分

資料閲覧可

### 【設問に関する注意事項】

- ① 別途記述がなければローカルルールは制定されていない。
- ② 別途記述がなければストロークプレー個人競技とする。
- ③ 別途記述がなければ誤所からのプレーの重大な違反は生じていない。
- ④ この練習問題はテストの形式を知っていただくために作成されたもので、問題数、難易度は本テストと同様です。しかしながら、本テストの出題を予想するものではありません。

※設問に関する個別のご質問は受け付けておりません。

1. バンカー内の球をストロークする前に球の直後の砂にクラブが触れた場合、適用する規則はどれか。
  - ① 規則12.1
  - ② 規則13.1
  - ③ 規則14.1
  - ④ ①～③に正解なし。
  
2. プレーヤーのキャディーが認められていないのにそのプレーヤーの球を拾い上げた場合、罰を受けるが、その罰の根拠となる規則はどれか。
  - ① 規則9.4
  - ② 規則13.1
  - ③ 規則10.3
  - ④ 規則14.2
  
3. 球がペナルティーエリアに入った場合の罰ありの救済を規定している規則はどれか。
  - ① 規則16.1
  - ② 規則17.1
  - ③ 規則18.1
  - ④ 規則19.1
  
4. プレーヤー達は同意によって規則問題を決定する権利はないことを規定している規則はどれか。
  - ① 規則1.2
  - ② 規則1.3
  - ③ 規則20.1
  - ④ 規則20.2
  
5. 球がアウトオブバウンズに止まっているのに、打ち直しをせずに、その球をあるがままにプレーした場合、適用される規則はどれか。
  - ① 規則18.1
  - ② 規則6.2
  - ③ 規則18.2
  - ④ ①～③に正解なし。

6. パッティンググリーン上からストロークした球が、そのパッティンググリーン上に止まっている他の球に当たった場合、罰を受ける方のプレーヤーに適用される規則はどれか。
- ① 規則9.5
  - ② 規則9.6
  - ③ 規則11.1
  - ④ 規則11.2
7. プレーのペースを支援するために打順を変えてプレーすることについて規定している規則はどれか。
- ① 規則5.6
  - ② 規則6.5
  - ③ 規則10.1
  - ④ ①～③に正解なし。
8. アマチュアに限定された競技で、アマチュア資格のないプレーヤーが参加していたことが競技終了後に分かった場合、適用する規則はどれか。
- ① 規則1.2
  - ② 規則3.1
  - ③ 規則20.1
  - ④ 規則20.2
9. 適合球でプレーしなければならないことを規定している規則はどれか。
- ① 規則4.1
  - ② 規則4.2
  - ③ 規則4.3
  - ④ 規則4.4
10. 他のプレーヤーのボールマーカがプレーの障害となる場合、適用する規則はどれか。
- ① 規則14.1
  - ② 規則15.3
  - ③ 規則16.1
  - ④ 規則16.2

11. マッチプレーで、レフェリーがひとつのマッチのラウンド全体に割り当てられた場合の責任について規定している規則はどれか。
- ① 規則3.1
  - ② 規則3.2
  - ③ 規則20.2
  - ④ 規則20.3
12. プレーの中断中にプレーヤーのストロークに影響を及ぼす状態が悪化した場合に適用する規則はどれか。
- ① 規則5.6
  - ② 規則12.2
  - ③ 規則8.2
  - ④ ①～③に回答なし。
13. 球の上に生きているトンボが止まった場合、適用できる規則はどれか。
- ① 規則15.1
  - ② 規則15.2
  - ③ 規則16.1
  - ④ 規則16.2
14. 球がペナルティーエリア内の地面にくい込んだ場合、適用できる規則はどれか。
- ① 規則15.3
  - ② 規則16.3
  - ③ 規則17.1
  - ④ 規則19.2
15. 球がバンカー内の霜の上に止まっている場合、適用できる規則はどれか。
- ① 規則8.1
  - ② 規則15.1
  - ③ 規則16.1
  - ④ 規則18.1

16. プレーヤーが特定の事実に気づいていたかどうかによって規則の適用を決める場合、そのプレーヤーの認識にはプレーヤーのキャディーが知っていることも含まれることを規定している規則はどれか。
- ① 規則1.2
  - ② 規則1.3
  - ③ 規則10.3
  - ④ 規則20.1
17. 規則に基づいて球をプレースする場合、球を取り替えることができることを規定している規則はどれか。
- ① 規則14.1
  - ② 規則14.2
  - ③ 規則14.3
  - ④ 規則14.4
18. ペナルティーエリアの球に対してプレー禁止区域が障害となる場合に適用する規則はどれか。
- ① 規則16.1
  - ② 規則16.2
  - ③ 規則17.1
  - ④ 規則19.1
19. 盲目のプレーヤーがキャディーの他に補助員を使うことを認めている規則はどれか。
- ① 規則25.1
  - ② 規則25.2
  - ③ 規則25.3
  - ④ 規則25.4

20. 暫定球が元の球と区別ができない場合、適用する規則はどれか。
- ① 規則7.1
  - ② 規則7.2
  - ③ 規則18.3
  - ④ 規則19.2
21. プレー禁止区域から自分の球をプレーした場合、誤所からのプレーとなる。
- ① 正しい。
  - ② 誤り。
22. ホールの中に球が落ち、そのホールの底でまだ動いている球を拾い上げた場合、ホールには入ったとはみなされない。
- ① 正しい。
  - ② 誤り。
23. コース保護のために使用する物は人工物であれば常に用具として扱われる。
- ① 正しい。
  - ② 誤り。
24. ペナルティーエリア内の木に張られている蜘蛛の巣はルースインペディメントである。
- ① 正しい。
  - ② 誤り。
25. 球を捜索する場合、3分の捜索時間内に分かった情報だけが、「分かっている、または事実上確実」であるかどうかを決定する際に考慮される。
- ① 正しい。
  - ② 誤り。
26. 公開されている風向きに関する情報はアドバイスとなる。
- ① 正しい。
  - ② 誤り。

27. 委員会はプレーを中断する権限をコース管理スタッフの代表者に委託することができる。
- ① 正しい。
  - ② 誤り。
28. 球が静止している動力付きカートの上に止まっていた。その後で、そのカートが動き出した場合、その球は動いたことになる。
- ① 正しい。
  - ② 誤り。
29. マッチプレーの相手のキャディーは外的影響である。
- ① 正しい。
  - ② 誤り。
30. コースエリアとして定義されるエリアは5つある。
- ① 正しい。
  - ② 誤り。
31. クラブレンジスはクラブのヒールからグリップのバットエンドまでのクラブ全体の長さであるが、そのグリップエンドに取り付けられた物がある場合、その取り付けられた物はクラブレンジスの一部ではない。
- ① 正しい。
  - ② 誤り。
32. トラクターによる轍は修理地である。
- ① 正しい。
  - ② 誤り。
33. コース上にあるかどうかにかかわらず、不可分な物と境界物を除くすべての人工物は障害物である。
- ① 正しい。
  - ② 誤り。

34. 境界物は不可分な物ではない。

- ① 正しい。
- ② 誤り。

35. 唾は異常なコース状態として扱うことができる。

- ① 正しい。
- ② 誤り。

36. ドロップゾーンを使用する場合、その救済エリアの基点はない。

- ① 正しい。
- ② 誤り。

37. 境界物に取り付けている支柱は障害物ではない。

- ① 正しい。
- ② 誤り。

38. バンカー全体が修理地となっている場合、ローカルルールを制定することを条件に、そのバンカーをジェネラルエリアとして扱うことができる。

- ① 正しい。
- ② 誤り。

39. ライにはルースインペディメントを含む。

- ① 正しい。
- ② 誤り。

40. 露や霜は異常なコース状態ではない。

- ① 正しい。
- ② 誤り。



41. プレーヤーはプレーの線を改善した場合には罰を受けるという規則を知っているにもかかわらず、その違反行為をし、その罰をスコアに加えなかった。この場合、プレーヤーが受ける罰はどれか。
- ① 罰なし。
  - ② 1罰打。
  - ③ 2罰打。
  - ④ 失格。
42. ラウンド中、ライ角が気になるので、5番ホールと6番ホールの間で故意にライ角を変えた。この場合の罰はどれか。
- ① 罰なし。
  - ② 5番ホールに2罰打を受ける。
  - ③ 6番ホールに2罰打を受ける。
  - ④ 5番と6番の両ホールにそれぞれ2罰打を受ける。
43. プレーの中断中、拾い上げていた球のライが観客によって悪化していたが、そのライを復元せずに、元の球を別の球に取り替えてリプレースしてプレーした。この場合の罰はどれか。
- ① 罰なし。
  - ② 1罰打。
  - ③ 2罰打。
  - ④ 3罰打。
44. プレーヤーがジェネラルエリアに止まっている自分のインプレーの球に故意に触れたが、揺れただけで場所は変わらなかった。この場合の罰はどれか。
- ① 罰なし。
  - ② 1罰打。
  - ③ 2罰打。
  - ④ 3罰打。

45. プレーヤーがストロークした球が木に跳ね返り、偶然にそのプレーヤーに当たった。この場合の罰はどれか。
- ① 罰なし。
  - ② 1罰打。
  - ③ 2罰打。
  - ④ 3罰打。
46. プレーヤーA は旗竿をホールに立てたままパットすることにした。プレーヤーA がパットした球が動いている間にプレーヤーB が旗竿を故意に取り除いた。もし B が旗竿を取り除かなかったら、A の球はその旗竿に当たった可能性があった場合、B に課せられる罰はどれか。
- ① 罰なし。
  - ② 1罰打。
  - ③ 2罰打。
  - ④ 失格。
47. プレーヤーA の球はプレーヤーB の球の近くのジェネラルエリアにあった。A は自分の球が B の球の障害となると考え、B の要請がなかったにもかかわらず、球をマークして拾い上げた。この場合、A に課せられる罰はどれか。
- ① 罰なし。
  - ② 1罰打。
  - ③ 2罰打。
  - ④ 3罰打。
48. 球がペナルティーエリアに止まっていたので、そのままプレーしようとバックスイングをしたところ、クラブヘッドがそのペナルティーエリア内の水に触れた。この場合の罰はどれか。
- ① 罰なし。
  - ② 1罰打。
  - ③ 2罰打。
  - ④ 3罰打。

49. 球がバンカー内にあり、打てないのでアンプレヤブルの救済を受けることにした。プレーヤーは元の球とホールを結ぶ後方線上のバンカー外に救済を受けることにした。プレーヤーはその後方線上から少し離れた所に球をドロップし、球はその後方線上から1クラブレンジス以内の所に止まり、プレーヤーはその球をプレーした。この場合の罰はどれか。

- ① 1罰打。
- ② 2罰打。
- ③ 3罰打。
- ④ 4罰打。

50. 規則に不適合の球でティーショットをした場合の罰はどれか。

- ① 1罰打。
- ② 2罰打。
- ③ 3罰打。
- ④ 失格。

51. 球が目的外グリーンに止まっていたので罰なしに救済を受けることにしたが、マーカーに何も言わず、元の球をマークせずに拾い上げ、別の球を規則に基づく救済エリアにドロップしてプレーした場合の罰はどれか。

- ① 罰なし。
- ② 1罰打。
- ③ 2罰打。
- ④ 3罰打。

52. プレーヤーA とプレーヤーB の球は同じバンカー内にあった。B が先にプレーした結果、A の意図するスタンス区域が悪化した。A は規則が分からず、悪化したスタンス区域を受け入れて修復せずに自分の球をプレーした。この場合の罰はどれか。

- ① 罰なし。
- ② 1罰打。
- ③ 2罰打。
- ④ 3罰打。

53. プレーヤーA とプレーヤーB は1人のキャディーを共用していた。3番ホールの第2打地点で A は共用のキャディーに B の球のホールまでの距離と、B が使用しようとしているクラブについて聞き、それらの情報を入手した。この場合の罰はどれか。
- ① 罰なし。
  - ② 1罰打。
  - ③ 2罰打。
  - ④ 4罰打。
54. バンカー内の球をプレーしようとしてバックスイングをしたときに、そのバンカー内の動物の穴の一部である砂山にクラブヘッドが触れた。この場合の罰はどれか。
- ① 罰なし。
  - ② 1罰打。
  - ③ 2罰打。
  - ④ 3罰打。
55. リプレースしなければならない球をドロップしてプレーしたが、誤所からのプレーではなかった場合の罰はどれか。
- ① 罰なし。
  - ② 1罰打。
  - ③ 2罰打。
  - ④ 3罰打。
56. プレーヤーの球はバンカー内の水たまりに入っていた。プレーヤーは規則に基づいて最大限の救済を受け、そのバンカー内に球をドロップした。その後で、プレーヤーは水たまりの中に再び止まった球に対して異常なコース状態からの救済の選択肢である後方線上の救済を受けることにして球をバンカーの外にドロップしてプレーした。この場合の罰はどれか。
- ① 罰なし。
  - ② 1罰打。
  - ③ 2罰打。
  - ④ 3罰打。

57. プレーヤーはラフで見つかった自分のインプレーの球を蹴飛ばしてしまった。プレーヤーはその後で、ストロークと距離の処置をとることを決定し、直前のストロークをした箇所から別の球をプレーした。この場合の罰はどれか。
- ① 1罰打。
  - ② 2罰打。
  - ③ 3罰打。
  - ④ 4罰打。
58. マッチプレーで、A と相手 B は7番を終えてオールスクエアだった。8番ホールで A は処置が分からなかったため、後で委員会に裁定をしてもらうため、2つの球をプレーした(いずれの球も4打だった)。相手の B は8番ホールを5で終えていたが、A が2つの球をプレーしたことについて何も言わなかった場合、8番ホールを終えた結果のマッチの状態はどれか。
- ① オールスクエア。
  - ② A の1アップ。
  - ③ B の1アップ。
  - ④ マッチは B の勝ちとなる。
59. 球がフェアウェイに落ちている木の葉の上に止まっていた。プレーヤーはその球が自分の球かどうかを確認するためにマークして拾い上げた。自分の球であると確認できた。プレーヤーはその球をリプレイスする前にその木の葉を取り除いた。この場合の罰はどれか。
- ① 罰なし。
  - ② 1罰打。
  - ③ 2罰打。
  - ④ 3罰打。

60. プレーヤーA とプレーヤーB の球はパッティンググリーン上にあった。A の球の方がホールから遠かったがB が先にパットしたところ、B の球が止まっている A の球に当たった。この場合、B に課せられる罰はどれか。
- ① 罰なし。
  - ② 1罰打。
  - ③ 2罰打。
  - ④ 3罰打。
61. A と B のマッチプレーの12番ホールを終えたところで、A は自分のスコアを誤解して B に「12番のスコアは4だった」と伝えたが、実際は5であった。B の12番のスコアは5だったが、その間違っただけの情報により12番はA の勝ちとなった。そのままマッチを続け、17番を終えたときに、12番のA のスコアが間違っていることが発覚した。この場合、正しい裁定の内容となるものはどれか。
- ① A は12番ホールの負けとなる。
  - ② B は裁定の要請をしていないので、そのマッチの結果は変わらない。
  - ③ マッチの結果はB の勝ちとなる。
  - ④ 12番ホールはハーフとなる。
62. 次のうち、地面に食い込んだ球の救済に関して正しいのはどれか。
- ① 基点は完全な救済のニヤレストポイントである。
  - ② 救済エリアはジェネラルエリアでなければならない。
  - ③ 救済エリアのサイズは一定の制限がある2クラブレンジスの範囲である。
  - ④ 救済を受ける際に球を拾い上げる場合、その位置をマークしなければならない。
63. 次のうち、異常なコース状態の救済に関して正しいのはどれか。
- ① すべて罰なしの救済となる。
  - ② すべての救済において球を取り替えることができる。
  - ③ すべての救済において基点は完全な救済のニヤレストポイントである。
  - ④ すべての救済においてドロップを採用している。

64. ストロークした球がジェネラルエリアに停めてあった管理車両の上に止まった場合に関して正しいのはどれか。
- ① 罰なしの救済を受けることはできない。
  - ② プレーヤーは罰なしに再プレーをしなければならない。
  - ③ 管理車両がすぐに動かせる場合、救済の基点は完全な救済のニヤレストポイントとなる。
  - ④ 管理車両を動かすことができない場合、基点と救済エリアは必ずジェネラルエリアになる。
65. バンカー内の球に対するアンプレヤブルの救済処置に関して正しいのはどれか。
- ① 救済の選択肢は3つある。
  - ② 後方線上救済の基点は球とホールを結ぶ線上となる。
  - ③ ラテラル救済を受ける場合、救済エリアはバンカー内となる。
  - ④ 救済はすべて1罰打が課せられる。
66. 球がペナルティーエリア内の一時的な水の中に入り紛失した。この場合、正しいのはどれか。
- ① 救済の基点は完全な救済のニヤレストポイントとなる。
  - ② 救済を受ける場合の救済エリアはそのペナルティーエリアの外であればどのコースエリアでも良い。
  - ③ 罰なしに救済を受けることができる。
  - ④ 球がその水たまりを最後に横切った地点を完全な救済のニヤレストポイントとする。
67. 1番ホールからプレーした球が、隣の2番ホールのパッティンググリーンの近くに止まり、その球をプレーしようとするときスタンスがそのパッティンググリーン上となる。この場合、正しいのはどれか。
- ① ストロークと距離の処置をとることができる。
  - ② 罰なしの救済を受けるかどうかはプレーヤーの選択となる。
  - ③ 罰なしの救済を受ける場合、球を取り替えることはできない。
  - ④ スタンスがパッティンググリーン上にあるというだけでは障害が生じていることにはならない。

68. ティーショット(球 A)が林に入ったので、規則に基づいて暫定球(球 B)をプレーした。球 B はフェアウェイの真ん中に止まった。球 A はすぐに見つかったが木の上に止まっていて打てない状態だった。この場合、正しいのはどれか。
- ① アンプレヤブルの処置をした球として球 B を第4打としてプレーすることができる。
  - ② プレーヤーがとれる唯一の処置はストロークと距離の処置だけである。
  - ③ 球 B をプレーした場合、誤球のプレーとなる。
  - ④ プレーヤーが球 A に対して罰ありの救済を受けた場合、次打は4打目となる。
69. 球がパッティンググリーン上にあり、プレーの線上に水たまりがあった。この場合、正しいのはどれか。
- ① 罰なしの救済の基点がパッティンググリーン外になる場合、ドロップしなければならない。
  - ② 障害は球とホールを結ぶ線上にその水たまりがある場合に常に生じる。
  - ③ 罰なしの救済を受ける場合、球を取り替えることができる。
  - ④ 水たまりをタオルでふき取ることができる。
70. 球がジェネラルエリアにあるタオルの上に止まった。この場合、正しいのはどれか。
- ① 罰なしの救済処置はリプレースとなる。
  - ② この場合の罰なし救済では救済エリアの概念はない。
  - ③ 罰なしの救済をする場合、球をふくことはできない。
  - ④ 罰なしの救済を受けた後、プレーヤーがストロークを行う球は必ずジェネラルエリアにある。
71. パッティンググリーン上でキャディーがプレーヤーの承認なしに球をマークして拾い上げた後、元の箇所にその球をリプレースしたがマークはまだ取り除いていない状態だった。この場合、正しいのはどれか。
- ① プレーヤーはキャディーが球を拾い上げたことに対して1罰打を受ける。
  - ② 球はまだインプレーとはなっていない。
  - ③ プレーヤーが、マークが残されたままの状態ですトロークをした場合、1罰打を受ける。
  - ④ その球が自然に動いた場合、新しい位置からプレーしなければならない。



72. プレーヤーはフェアウェイにある球が自分の球かどうかを確認できないので、球を拾い上げて確認することをした。プレーヤーはマーカーに何も告げずに、その球の箇所をマークしないで拾い上げたところ、マーカーから、「マークしなかったので規則違反だ」と指摘された。その後、プレーヤーは自分の球であることを確認し、その球をふいてから元の箇所にリプレースした。この場合、正しいのはどれか。

- ① マーカーに何も告げずに球を拾い上げたことに対して罰を受ける。
- ② 2つの規則違反の間に介在する出来事があったので、罰の合計は3罰打となる。
- ③ プレーヤーは複数の手続き違反をしているので、合計で1罰打を受ける。
- ④ この事例について規則9.4は関連しない。

73. ラウンド中、プレーヤーが怪我をした場合、回復のために委員会が認めるべき時間について正しいのはどれか。

- ① 委員会は回復のために20分の時間を認めることができる。
- ② プレーヤーがプレーを続けない時間が委員会が認めた時間を超えた場合、中断の違反となり失格となる。
- ③ 委員会が認めた時間は、そのラウンド中、その怪我のために治療が繰り返された時間の合計時間に適用すべきである。
- ④ 委員会は特定の時間で制限するべきではなく、怪我の状態を勘案したうえで回復のための合理的な時間をプレーヤーに認めるべきである。

74. アンプレヤブルの救済について正しいのはどれか。

- ① アンプレヤブルの救済を受けるためには、マーカーまたは他のプレーヤーにその旨を告げなければならない。
- ② 1罰打を加えてラテラル救済を受けた後、さらに1罰打を加えて、その球を基点にラテラル救済を受けることができる。
- ③ アンプレヤブルの救済のうち、ストロークと距離の救済を選択する場合、元の球よりホールに近づくことがなければ、最後のストロークを行った場所に限らず、そのさらに前に行ったストロークの場所まで戻って救済を受けることが認められる。
- ④ バンカー内の球に対して1罰打でアンプレヤブルの後方線上の救済を受けた後、2罰打を加えてバンカーの外に救済を受けることは認められない。

75. フォアボールの競技で、パートナーが違反した場合、そのサイドが失格となる規則違反のうち、ストロークプレーのフォアボールにだけ適用となる規則違反はどれか。

- ① 5.2
- ② 5.3
- ③ 5.4
- ④ 5.7

76. 次のうち、正しいのはどれか。

- ① 4ラウンドの競技で、その4ラウンドすべてをカウントしない競技では、プレーヤーは1つのラウンドで失格となったことについてその競技の失格にはならない。
- ② マッチプレーで、両方のプレーヤーがスタート時間に遅刻した場合、先にティーイングエリアに到着していたプレーヤーが最初のホールの勝ちとなる。
- ③ プレーヤーのキャディーがプレーの線を示すために物を置くことの禁止はパッティンググリーンからプレーする球に対してのみ適用する。
- ④ 競技に参加したプレーヤーに参加資格がなかったことが発覚した場合、競技終了前であれば、成績を修正することができる。

77. 次のうち、正しいのはどれか。

- ① 間違っただけでドロップしたが、球は救済エリアに止まったので、そのままプレーした場合、2罰打を受ける。
- ② 規則に基づいて球をプレースする場合、球を取り替えることができる。
- ③ 救済処置をしてパッティンググリーン以外の場所にプレースした球が一旦止まった後に自然に動いた場合、その球をリプレースしなければならない。
- ④ 球がレーキに寄りかかって止まっていたので、レーキを取り除いたところ球が動いた。プレーヤーはその球をリプレースするときに拾い上げた球をふくことはできない。

78. 次のうち、正しいのはどれか。

- ① 球の搜索を開始した後に暫定球をプレーすることはできない。
- ② マッチプレーでは、相手の援助となる自分の球をその場所に残しておくことに両者で合意しても罰はない。
- ③ ディボット跡に戻してあるディボットはまだ活着していなければルースインペディメントとして扱う。
- ④ ホールとホールの間でプレーヤーA はプレーヤーB のパターを借りて認められる練習ストロークを行った。この場合、A は次のホールに2罰打を受ける。

79. 次のうち、正しいのはどれか。

- ① パッティンググリーン上で球の位置をマークする場合、球の前(ホール側)にボールマーカーを置くことはできない。
- ② パッティンググリーン面の湿り具合を確認するために手のひらをパッティンググリーン面に置いた場合、罰を受ける。
- ③ パッティンググリーン上でストロークした球がパッティンググリーン上に抜いて置いてあった旗竿に当たりそうになったので、プレーヤーのキャディーがその旗竿を取り除いた。この場合、常に罰はない。
- ④ 委員会がプレーを中断し、プレーヤーがその区域から立ち去るときに偶然に自分の球を動かした場合、常に罰はない。

80. 次のうち、正しいのはどれか。

- ① ストローク中にクラブヘッドに貼ってあった鉛テープが取れた。その鉛テープをクラブの同じ位置に貼ってもすぐに剥がれてしまう場合、その鉛テープではない新しい鉛テープを使って元の状態と同様に貼りなおすことができる。
- ② プレーヤーA は第1組のスタートでキャディーX を使用していた。プレーヤーA がラウンドを終了した後、最終組でこれからスタートするプレーヤーB がキャディーX を自分のキャディーとして使用することはできない。
- ③ 救済エリア内にジェネラルエリアとパッティンググリーンが存在していた。プレーヤーは救済エリア内のジェネラルエリアに球をドロップしたが、その球はその救済エリアの外に出てしまったので、再ドロップをすることにした。この場合、再ドロップをその救済エリア内のパッティンググリーン上にすることは認められない。
- ④ 球がペナルティーエリアにある場合、ペナルティーエリア外にある動かせない障害物による障害があるときは、罰なしに救済を受けることができる。

81. 次のうち、正しいのはどれか。

- ① ペナルティーエリアの一部が赤、別の部分が黄色でマーキングされている場合、球がレッドペナルティーエリアにあるのか、イエローペナルティーエリアにあるのかの決定は球が止まっている場所がどちらのエリアなのかに基づく。
- ② 委員会は通常はバンカーとなる砂の区域をペナルティーエリアとして定めるべきではない。
- ③ ペナルティーエリアをプレー禁止区域とすることはできない。
- ④ 1つの水域が2つのホールに関連する場合、プレーするホールによってレッドペナルティーエリアとイエローペナルティーエリアのステータスを変えることはできない。

82. プレーヤーAとBのマッチプレーの12番ホールで、レフェリーは12番ホールはすでにAの負けとなっていると勘違いし、Aがプレーのペースの方針に違反しているホールの負けの罰をAに告げなかった。しかし、AとBが13番のティーショットを打ち終わった後、12番はAの負けではなくハーフであったことが分かった。この場合、正しいのはどれか。

- ① Bが裁定の要請をしていたかどうかに関わらず、12番はAの負けとなり、マッチの状態を修正しなければならない。
- ② 12番ホールをBの勝ちに修正するかどうかはBが決定することができる。
- ③ プレーヤー達はこのレフェリーに上訴する権利を持っている。
- ④ レフェリーは誤りを訂正することはできない。

83. プレーヤーが倶楽部ハウスで顔見知りのレフェリーに会ったときに「砂はルースインペディメントなのですか?」と聞いたところ、レフェリーは「そうだよ。だからどこにあっても取り除くことができるんだ」と回答した。プレーヤーはその後スタートし、3番ホールのフェアウェイで球のライにある砂を取り除いて改善をした。この場合、正しいのはどれか。

- ① プレーヤーに罰はない。
- ② プレーヤーは1罰打を受ける。
- ③ プレーヤーは2罰打を受ける。
- ④ その罰を免除するかどうかは、その誤った情報を与えたレフェリーの裁量によって決定すべきである。

84. 次のうち、正しいのはどれか。

- ① 水の中に止まっている誤球をプレーしても罰はない。
- ② バンカー内でリプレースしなければならない球が止まらないのでその球を砂に押し込んでリプレースした。この場合、規則14.2は関連する規則の一つとなる。
- ③ 正しい処置が分からないために2つの球をプレーする場合、マーカーにそのことを告げなかった場合は罰を受ける。
- ④ 救済を受けてドロップする場合、プレー禁止区域にドロップすることはできない。

85. 次のうち、正しいのはどれか。

- ① アプローチショットが直接ホールに当たり、球はホールに入らなかったが、その結果、ホールの縁が崩れた。この場合、プレーヤーはこの縁を修理することはできない。
- ② 球がペナルティーエリアと異常なコース状態が近接している区域に止まったが、合理的に考えても、どちらの区域に止まったのか判断できない場合、その球は異常なコース状態にある球として扱わなければならない。
- ③ 「別の球を打ちます」は暫定球の宣言として認められる。
- ④ ストロークを行う場合、クラブ握っている手が偶然に衣服に触れているというだけでは規則違反とはならない。

86. 第1打となるティーショット(球 A)がペナルティーエリアに入ったかもしれなかった。第2打地点で、球 A はペナルティーエリアに入ったものと考えて(事実上確実な証拠はなかった)、球 B をそのペナルティーエリアの後方にドロップしてプレーした。その後で球 A がペナルティーエリアの外で発見された(球の検索時間の3分は経過していなかった)。この場合の裁定に関して正しい言及はどれか。

- ① プレーヤーは規則18.1で認められていない所からプレーをしたことになる。
- ② プレーヤーは球の取り替え違反の罰を受けることになる。
- ③ この事例の罰の合計は2罰打である。
- ④ 見つかった球 A はインプレーの球である。

87. パッティンググリーンの形状を読むために使用する資料について正しいものはどれか。

- ① パッティンググリーンの図のサイズの縮尺は5ヤードに対して3/8インチ以下でなければならない。
- ② パッティンググリーンの図を含む資料の大きさは4インチ×8インチを越えてはならない。
- ③ デジタル形式の資料は認められない。
- ④ 規則に適った資料でもプレーヤーがパッティンググリーンの図に手書きのメモを書き入れた場合、その資料は不適合のものとなる。

88. 次のうち、正しいのはどれか。

- ① 委員会はコースには必ず境界を設定しなければならない。
- ② 自然物を不可分な物と指定することができる。
- ③ アンプレヤブルの救済に対するドロップゾーンを設定することができる。
- ④ バンカーレーキはバンカー内に置くことが強く勧められる。

89. 臨時の動かさない障害物(TIO)のローカルルール F-23に関して正しいものはどれか。

- ① TIO を支えているガイワイヤはその TIO の一部として扱われる。
- ② アウトオブバウンズにある TIO からの罰なしの救済はない。
- ③ ペナルティーエリア内に球がある場合、TIO から罰なしに救済を受けることはできない。
- ④ TIO の物理的な障害からの救済のためのドロップゾーンが設定されている場合はそのドロップゾーンを必ず使用しなければならない。

90. 臨時の動かさない障害物(TIO)のローカルルール F-23に関して正しいものはどれか。

- ① TIO の物理的な障害からの救済を受ける場合、異常なコース状態による障害からの罰なし救済と同じ救済措置を選択することができる。
- ② 球が TIO の中で紛失し、救済を受けるために別の球をドロップした後に、元の球が球の搜索の3分以内に見つかった場合、元の球がインプレーの球である。
- ③ TIO が球とホールを結ぶ線上にある場合、その球をその TIO の場所まで届かせることが明らかに不合理な場合であっても、介在の障害からの救済を受けることができる。
- ④ 臨時の動力線ケーブルは TIO として扱われる。

91. 臨時の動かさない障害物(TIO)のローカルルール F-23に関して正しいものはどれか。なお、各選択肢はプレーヤーが合理的なストロークを行うことができることを前提とする。

- ① 球が TIO の中にある場合、物理的な障害が生じているが、必ずしも介在の障害が生じているとは限らない。
- ② 球が TIO に触れている場合、介在の障害が生じていることになる。
- ③ TIO から1クラブレンジ以内にある球は常に介在の障害が生じている。
- ④ TIO がプレーの線上にある場合、介在の障害が生じていることになる。

92. 次のうち、正しいものはどれか。

- ① 1番ホールと2番ホールの間にあるペナルティーエリアを1番のプレーに対してはイエローペナルティーエリア、2番のプレーに対してはレッドペナルティーエリアとして設定することはできない。
- ② ペナルティーエリアの杭に寄りかかっている球はペナルティーエリア内の球である。
- ③ 水のない区域をレッドペナルティーエリアとすることはできるが、イエローペナルティーエリアとすることはできない。
- ④ ペナルティーエリアのすべてをプレー禁止区域として定めることはできない。

93. 次のうち、正しいものはどれか。

- ① ドロップゾーンを線で定める場合、その線自体はドロップゾーンの外となる。
- ② 2ボールのプレーの場合のスタート間隔は7分が推奨されている。
- ③ 不可分な物は人工物である。
- ④ 競技の条件でアンチドーピングの方針が定められている場合、その方針に従わなかったプレーヤーは規則1.2に基づき失格となる。

94. 次のうち、正しいものはどれか。

- ① 動物の糞をルースインペディメントとするローカルルールを制定することはできるが、その糞を修理地とするローカルルールの制定は認められない。
- ② 球が恒久的な高架送電線に当たった場合に再プレーを要求するローカルルールが制定されているのに、再プレーをせずにプレーしていった場合、誤所からのプレーとなる。
- ③ 動かせる障害物を動かさない障害物として扱うローカルルールを制定することは認められる。
- ④ 溝とパンチマークの仕様に関するローカルルールが制定されている場合、2016年より前に製造されたクラブについては適合とみなされる。



95. 次のうち、正しいものはどれか。

- ① 委員会はレフェリーの裁定に同意しないプレーヤーにセカンドオピニオンを求めることを常に認める方針を採用することができる。
- ② レフェリーは規則違反をしそうになっているプレーヤーに警告する義務がある。
- ③ 裁定を行った後に新しい事実が分かった場合、レフェリーは再審理をしなければならず、その場合、すでに行った裁定は無効となる。
- ④ パッティンググリーン上に生えているキノコは罰なしに取り除きを認めるローカルルールを制定することができる。

96. レフェリーは、プレーヤーがプレーの線上を踏みつけて改善したのではないかと思ったので、プレーヤーに「改善したのではないか?」と聞いたところプレーヤーは「プレーの線を跨いだけで、プレーの線を改善はしていないはずです」と回答したので、レフェリーは罰なしとの裁定を行った。その後、そのプレーヤーが実際にはプレーの線を踏んでいて、しかも改善されているという事実が分かった。このプレーヤーがレフェリーに正しい情報を提供するために最善を尽くしていた場合、正しい裁定はどれか。

- ① レフェリーの裁定は最終であり訂正されず、罰なしとなる。
- ② プレーヤーは1罰打を受ける。
- ③ プレーヤーは2罰打を受ける。
- ④ プレーヤーは規則1.2に基づき失格となる。

97. プレーヤーのティーショットが修理地に落ちたように見えたが、球がその修理地の中にあることの事実上確実な証拠はなかった。プレーヤーは球が見つからないので、球がその修理地にあると決めつけて別の球を修理地からの救済を受けたものとしてドロップした。この事例について正しい言及はどれか。

- ① ドロップした球をストロークした場合、少なくともストロークと距離の処置に基づく1罰打は適用される。
- ② ドロップした球をストロークした場合、誤球のプレーの違反の罰を受ける。
- ③ 少なくとも球の取り替え違反の2罰打は適用される。
- ④ もし、ドロップした球をプレーする前に元の球が3分の搜索時間内に見つかった場合、その元の球をプレーすることはできない。

98. ティーショットの第1打(球 A)はペナルティーエリアの方に飛んで行ったが、球がそのペナルティーエリアに入ったかどうかはまったく分からなかった。プレーヤーは暫定球を宣言して球 B をプレーしたが、その球はアウトオブバウンズの方向に飛んだ。プレーヤーは怒って何も言わずに球 C をティーイングエリアからプレーし、球 C はフェアウェイに止まった。球 A が紛失となった場合、正しいのはどれか。
- ① 次打は球 B を4打目としてプレーする。
  - ② 次打は球 C を4打目としてプレーする。
  - ③ 次打は球 C を6打目としてプレーする。
  - ④ プレーヤーはティーに戻り別の球を7打目としてプレーしなければならない。
99. 正しい処置について疑問がある場合に2つの球をプレーする規則について正しいのはどれか。
- ① マッチプレーで2つの球をプレーした場合、誤球のプレーをしたことになり、そのホールの負けとなる。
  - ② プレーヤーがどちらの球を採用したいのかをマーカーに告げていなかった場合、2つの球の処置がともに規則で認められているのであれば、元の球でのスコアが採用となる。
  - ③ 2つの球をプレーする時限が過ぎていたのに第2の球をプレーした場合、練習ストロークの違反が適用される。
  - ④ 2つの球をプレーした場合、両方のスコアが同じであったとしても、スコアカード提出前に委員会に報告しなければならず、それをしなかった場合は失格となる。
100. プレーヤーは第2打(球 A)をラフからプレーし、球 A はバンカーに入った。バンカーショットをする前に他のプレーヤーに「バンカーショットのアドレスはこんな感じですか」と他のプレーヤーにアドバイスを求めた。その後、球 A をプレーするためにバックスイングをしたときに偶然にクラブヘッドがそのバンカー内の砂に触れたが、そのままストロークし、球 A はパッティンググリーンにのった。球 A をマークして拾い上げたら、その球は自分の球ではなかった。この場合、第2打地点で元の球(プレーヤーの正球)がインプレーで見つかった場合、次打は何打目となるか。
- ① 5打目
  - ② 6打目
  - ③ 7打目
  - ④ 8打目

## 正 解

1	④	21	①	41	④	61	①	81	②
2	①	22	②	42	①	62	②	82	④
3	②	23	②	43	①	63	②	83	③
4	③	24	①	44	②	64	④	84	②
5	④	25	①	45	①	65	③	85	④
6	③	26	②	46	③	66	②	86	①
7	①	27	①	47	②	67	①	87	①
8	④	28	①	48	①	68	③	88	③
9	②	29	②	49	④	69	③	89	①
10	②	30	①	50	④	70	④	90	①
11	②	31	②	51	①	71	③	91	②
12	④	32	②	52	①	72	④	92	②
13	①	33	①	53	①	73	③	93	③
14	③	34	①	54	③	74	②	94	③
15	④	35	①	55	②	75	①	95	①
16	③	36	①	56	②	76	①	96	③
17	③	37	②	57	②	77	②	97	①
18	③	38	②	58	②	78	②	98	③
19	②	39	②	59	②	79	③	99	④
20	③	40	①	60	③	80	①	100	②